

己を磨く! 夏の参禅体験 & 秋の文化講座



KEIBUN創立30周年のアニバーサリーイヤーもいよいよ後半に突入!
今回は毎年8月に比叡山延暦寺で開催している「KEIBUN参禅体験」と、9月からスタートする「第34期(秋期)KEIBUN文化講座」を徹底特集!! 自分自身を見つめ直し、己を磨く絶好のチャンスです。

第一弾

「夏の比叡山 参禅体験2014」攻略

喧騒あふれる日常生活から少し距離を置き、霊峰・比叡山の静寂に身を委ねてみる。恒例「KEIBUN参禅体験」で、この夏もう一人の自分と向き合ってみませんか? 食事作法や写経、坐禅止観など厳しい仏道修行は難関の連続です。今回はその一端をご紹介します。

食事

朝食を小食、昼食を正食、夕食を非食と呼びます。私たちが最初につかる壁が、この食事作法です。食堂に正座し、私語は厳禁。器を置く音、お箸の音、咀嚼する音など、一切の音をたてはなりません。当然、料理は残さず食べる。食べ終わったらお茶を器に注ぎ洗鉢。一切れ残しておいたタクアンで器をきれいに洗い、集めたお茶を最後に飲み干します。食べ物はずべて命あるもの。人間はそれを食べないと生きてはいけません。作法を通じて食事のありがたみを噛み締めます。

写経

写経は、最澄の弟子慈覚大師円仁和尚によつてはじめられた、現在も重要な修行のひとつです。写経の前に塗香で身口意を清め、お勤めのあとに硯で墨をすり、小筆で般若心経の一字一字を仏様と想って、ただひたすらに黙って書いていきます。普段筆を使い慣れていない初心者にはこれが至難の業。参加者はお手



※写真はイメージです。

坐禅止観

本を半紙の下に敷いて、なぞりながら書き写していきます。心を静めて集中していると、やがて足のしびれも忘れてしまいかも…。呼びます。場所は国の重要文化財である積迦堂。結跏趺坐で座り、身と息、心の三つを整えます。背筋を伸ばし、目は半眼、自分の鼻頭を見下ろすぐらいの視線で。集中力が途切れたり、眠気などで体が揺らぐと、僧侶に禅杖で背中を打たれますが、これは肩から背中にかけての筋をほぐす意味合いもあるとか。無の境地で自分を見つめる、日常生活の中ではめったにできない経験です。

この他、早朝の「山内巡拝」は延暦寺の諸堂をめぐる爽やかなひとときです。食事のあとの座談会や法話は、日々の生活のためになる話ばかりで、あらためて気づかされることも多いのかもしれませんが。仏道修行の本当の厳しさは一日や二日ではわかりませんが、きつと忘れたい二日間になるはず。

※足の甲を反対の足の太ももにのせる坐禅の座り方

第一日目 8月9日(土)	第二日目 8月10日(日)
10:15 集合	5:00 覚心(起床)
11:00 お話 (食事作法・食事の意味)	5:20 積迦堂にて坐禅止観
12:00 正食(昼食)	6:30 山内巡拝 (浄土院など)
13:00 比叡山についてのお話	7:30 作務
14:00 写経	8:00 小食(朝食)
16:30 坐禅止観	9:00 法話
18:30 非食(夕食)	10:30 解散
19:30 お坊さんと話をしよう	
20:30 開浴(入浴)	
22:00 放心(就寝)	

参禅体験スケジュール予定

~KEIBUN30周年記念特典~

参禅体験にご参加の方は、延暦寺の巡拝料(東塔・西塔・横川)を無料にさせていただきます。

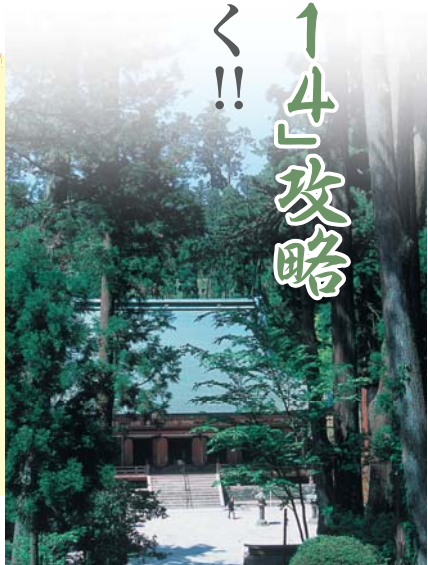
4187 夏の比叡山 参禅体験2014

8月9日(土) 10:15~
10日(日) 10:30頃解散予定

- 場 所 / 比叡山延暦寺居士林
- 参加費 / 1泊2日(3食付) 10,800円
- 定 員 / 80名(小学生以上参加可。ただし、小学生の方は保護者の同時参加要)

※お申し込みは24ページに添付の専用申込書を郵送、又はFAXでお送りください。「ねっとも」会員の方は、ホームページからお申し込みいただけます。電話受付も可。

写真右 / 積迦堂(びわこビジターズビューロー提供)





第二弾

第34期(秋期)KEIBUN 文化講座9月スタート

Close Up Interview

新講師に聞く



奈良時代は日本の青春時代!? 時を越えて想像することが大切

奈良時代は、天皇を中心とした国家体制を確立させるなど、新しい国づくりに積極的に取り組んだ時代。学生や僧を唐へ留学させて大陸の文明を導入し、仏教文化が華開いた時代でもある。

「国づくりに関わった人たちは、みんな一生懸命でした。天災が起き、疫病の流行もあって、迷い悩み傷つくことも多かったのですが、ひたむきに理想を求めた時代でした。苦しい時代ではあったけれど、振り返ったときに、とても美しく輝いている時代。だから私は、奈良時代を日本の(青春時代)と呼んでいます」と話すのは、30年にわたり奈良国立博物館の연구원として奈良と仏教の魅力を伝え、この春から帝塚山大学文学部文化創造学科の教授に就任した西山厚さん。秋から始まる草津

会場の新講座「奈良時代への旅」で講師を務める。

「歴史を学ぶときにもっとも大事なのは、他人事にはないということ。歴史上の人物の苦しみや悲しみや喜びに思いをはせる。そうしないと大切なことが見えてきません」例えば、東大寺の大仏は日本人の誰もが知っている奈良のシンボルである。しかし、聖武天皇がどのような思いの果てに、なぜ大仏を造ろうと決意したのか、それを正確に知っている人はきわめて少ない。

「聖武天皇が大仏を造ろうと決意した理由、それはすべての動物とすべての植物がともに栄える世の中を作りたいということでした。でもそんな世の中って本当にあるのでしょうか。聖武天皇はあの大きな大仏を(大きな力で造るな、たくさん富で造るな)と言いました。大きな力やたくさん富こそ必要だと思えるのに。聖武天皇がそういう考えになったのはわけがありました。そのわけを知らなければ、大仏を知っているとは言えません」講座では、聖武天皇が大仏に込め

史料から読み解く多様な側面 近江の旅人と商人の実像に迫る

近江商人や近江地域史に関する古文書・古記録などの興味深い史料を多数収録し、調査・研究を行う「滋賀大学経済学部附属史料館」。収蔵品は約17万6千点にも及び、重要文化財に指定されている中世の史料群や滋賀銀行の前身の銀行帳簿なども保管している。この秋から長浜会場が始まる新講座「近江の旅人と商人たち」の講師は、この附属史料館館長で経済学部教授の宇佐美英機さんと、附属史料館専任教員で経済学部教授の青柳周一さんが務める。

前半は旅行文化史、観光地域史をテーマに研究している青柳さんが江戸時代の旅行者一人一人にスポットを当て、残されている旅日記を元に、その行動文化を読み解く。「江戸時代は識字率が高く、武士や商人らがさまざまな記録を残しています。旅日記もそのうちのひとつ。当館で保管している近江商人・中井源左衛門家の旅日記には、当主が仙台などに展開した出店の経営状態を見るために定期的に旅した様子が綴られ、ここから滋賀と東北地方との歴史的なつながりがわかります。また、彦根の自芳尼という女性、西国三十三所の旅について記し、高齢ながらアクティブに人生を楽しむ様子が見られます。江戸時代の女性といえは家父長制で家に縛られているイメージが強いのですが、意外にも文化的に活動する一面もあります」と青柳さん。近江から他の地域に関心を持って活発に出かける人たちの存在を知ると、その時代に対する歴史観が変わってくるという。後半は近江商人の研究で知られる宇佐美さん。今回はこれまであまり取り上げられてこなかった近江商人の人物像に焦点を当て、大手商社の伊藤忠、丸紅の創始者で近江商

帝塚山大学文学部文化創造学科教授

西山厚

「過去が過去で終わってしまっただけで、大仏開眼(大仏に魂を入れる儀式)の導師をつとめたインドからの渡来僧・菩提僊那、聖武天皇の遺愛品(これが正倉院宝物)を大仏に献納した光明皇后、苦難の末に日本に至って唐招提寺を創建した鑑真和尚などの人物に焦点を当てながら、これらの人々が、どんなことを思いながらどんな人生を送ったのかを考えていく。そのためには、想像力を働かすことが必要不可欠だ。」「過去が過去で終わってしまっただけで、意味がありません。過去は、今や明日や未来につながってこそ意味がある。そのような歴史の学び方をしていきたい」と西山さん。

滋賀大学経済学部教授

宇佐美英機 / 青柳周一

人を代表する伊藤忠兵衛にも迫る。「近江商人にはいろいろな人がいます。例えば猪田清八は近世に起きた愛知川騒動の責任の一端を取らされた志岐島に流されるのですが、亡くなる数日前に文書を書き残します。そこには『若き頃、金はこの世の宝なり』と書いて稼ぐとしても老いては『命なければいらぬものなり』という境地が綴られており、常に清らかな道徳観だけで働いたわけではない近江商人の精神も知ることができます。世に出ている近江商人の本には俗説的なものも多いのですが、我々は根拠となる史料を踏まえ、学術的な内容を分かりやすく伝えたいと思っています」と宇佐美さん。近江商人の未整理の史料はまだ膨大にある。今後明らかにされる真実次第では、イメージが変わるかもしれない面白い分野だ。10月11日頃、附属史料館では秋の企画展(一般見学可)が行われる。伊藤忠兵衛家の事業経営をテーマに、これまでの研究成果を報告する。講座と合わせて見れば、近江商人をより深く理解できるに違いない。



中井源左衛門家文書の旅日記

34-16 近江の旅人と商人たち 講師/滋賀大学経済学部教授 宇佐美英機・青柳周一 長浜会場/長浜曳山博物館

- プログラム(全6回) 各13:30~15:00 9月26日(金) 近江から東北へ一日野商人・中井源左衛門の旅(青柳) 10月 3日(金) 近江から江戸へ一堅田・錦織五兵衛の旅(青柳) 10月24日(金) 江戸時代の女性の旅一彦根・自芳尼の旅(青柳) 11月14日(金) 猪田清八一志岐島で果てる(宇佐美) 11月28日(金) 馬場利左衛門一全盛期に閉店(宇佐美) 12月 5日(金) 伊藤忠兵衛一最後の近江商人(宇佐美)

宇佐美英機(うさみひでき) 1951年福井県生まれ。同志社大学大学院文学研究科博士課程(前期)修了。専攻は日本経済史。近年は近江商人を研究。主な著書は『初代伊藤忠兵衛を追慕する』(清文堂)、『近世風俗志(守貞叢稿)』(岩波文庫)など。 青柳周一(あおやぎしゅういち) 1970年生まれ。東北大学大学院文学研究科博士課程(国史学専攻)修了。主な著書は『富岳旅百景一観光地域史の試み』(角川書店)、『近世の宗教と社会(1)地域のひろがり』(吉川弘文館)など。

34-06 奈良時代への旅 講師/帝塚山大学文学部文化創造学科教授 西山厚 草津会場/しがぎん草津ビル

- プログラム(全6回) 各10:30~12:00 9月 1日(月) 聖武天皇と大仏 9月22日(月) 菩提僊那と大仏開眼 10月 6日(月) 光明皇后と奈良時代の福祉 10月20日(月) 正倉院宝物の魅力 11月10日(月) 鑑真和尚と唐招提寺 11月17日(月) 東大寺二月堂のお水取り

西山厚(にしやまあつし) 1953年徳島県生まれ。京都大学大学院文学研究科博士課程修了。専門は日本仏教史。奈良国立博物館学芸部長を経て、2014年4月より帝塚山大学文学部に新設された文化創造学科の教授に就任。奈良国立博物館では「女性と仏教」など数多くの特別展を企画。奈良と仏教をメインテーマに、生きた言葉で語る活動を続けている。主な編著書に『仏教発見!』(講談社現代新書)、『僧侶の書』(至文堂)、『官能仏教』(角川書店)、『東大寺』(平凡社)など。

KEIBUN文化講座 第34期[秋期]受講生募集中

期間/2014年9月~12月

2014年9月開講

お試し受講
大歓迎

会場	講座番号	講座名	講師	開講日	時間	備考
大津会場 旧大津公会堂	34-01	花と緑の魅力	甲南大学理工学部教授 田中 修	9月 5日(金) 9月19日(金) 10月 3日(金) 10月17日(金) 11月 7日(金) 11月21日(金)	各10:30~12:00	
	34-02	安土城考古博物館 提携講座 秋季特別展 『造形衝動の一万年』を学ぶ			各13:30~15:00	*現地学習1回含む
	34-03	源氏物語のことばと心	京都橋大学教授 福岡昭治	9月 9日(火) 9月30日(火) 10月 7日(火) 10月14日(火) 11月11日(火) 11月25日(火)	各10:30~12:00(定員100名)	
草津会場 しがぎん 草津ビル	34-05	文学を通してみる 近江の風景	旅行作家 西本柳枝	9月16日(火) 9月30日(火) 10月14日(火) 10月28日(火) 11月11日(火) 11月25日(火)	各13:30~15:00	*現地学習1回含む(定員100名)
	34-07	近江の古墳群を築造した 氏族と古代寺院	滋賀大学名誉教授 小笠原好彦	9月 3日(水) 9月24日(水) 10月 8日(水) 10月15日(水) 11月19日(水) 12月 3日(水)	各13:30~15:00	*現地学習1回含む
	34-09	成安造形大学提携講座 西洋美術史入門	成安造形大学教授 千速敏男	9月 1日(月) 9月29日(月) 10月27日(月) 11月17日(月) 12月 1日(月) 12月15日(月)	各13:30~15:00	
	34-11	『音楽の招待席』 ~天才たちの奇蹟にせまる120分!	作家・音楽評論家 響 敏也	9月18日(木) 10月 2日(木) 10月16日(木) 11月 6日(木) 11月20日(木) 12月20日(土)	各13:30~15:30	*現地学習1回含む
	34-13	初めての日本画・入門編	日本画家 清水 豊	9月17日(水) 10月 1日(水) 10月22日(水) 10月29日(水) 11月12日(水) 11月26日(水)	各10:00~12:30	*画材費(約7,000円)別途必要
	34-04	日めくり万葉集入門	高岡市万葉歴史館館長 坂本信幸 奈良女子大学名誉教授	9月 8日(月) 9月22日(月) 10月 6日(月) 10月20日(月) 11月10日(月) 12月 8日(月)	各14:00~15:30	*現地学習1回含む
	34-06	奈良時代への旅	帝塚山大学文化創造学科教授 西山 厚	9月 1日(月) 9月22日(月) 10月 6日(月) 10月20日(月) 11月10日(月) 11月17日(月)	各10:30~12:00	
	34-08	歴史にみるイスラムの拡大 『知の営みと展開』	京都外国語大学教授 堀川 徹	9月12日(金) 9月26日(金) 10月10日(金) 10月24日(金) 11月28日(金) 12月 5日(金)	各10:30~12:00	
	34-10	「オペラ、クラシックを斜めに見ると、どうなる?」~異説・楽聖物語~	大阪音楽大学客員教授・音楽評論家 日下部吉彦	9月 9日(火) 10月 7日(火) 10月21日(火) 11月 4日(火) 11月18日(火) 12月 2日(火)	各14:00~15:30	
	34-12	写らないものを感じさせる写真	写真家 西岡伸太	9月11日(木) 9月25日(木) 10月 9日(木) 10月23日(木) 11月13日(木) 11月27日(木)	各13:30~15:00	*現地学習2回含む
	34-14	日本画を楽しむ・上達編	日本画家 清水 豊	9月17日(水) 10月 1日(水) 10月22日(水) 10月29日(水) 11月12日(水) 11月26日(水)	各13:30~16:00	*画材費(約7,000円)別途必要
長浜会場 長浜市 曳山博物館	34-15	城が語る日本の歴史	滋賀県立大学教授 中井 均	10月 3日(金) 10月24日(金) 11月 7日(金) 11月21日(金) 12月 5日(金) 12月19日(金)	各10:30~12:00	*現地学習1回含む
34-16	近江の旅人と商人たち	滋賀大学経済学部教授 宇佐美英機/青柳周一	9月26日(金) 10月 3日(金) 10月24日(金) 11月14日(金) 11月28日(金) 12月 5日(金)	各13:30~15:00		

- 受講料/1講座全6回で10,800円(税込。入会金不要) ※現地学習には別途参加費が必要です。
 - 特典/滋賀銀行年金受給者の方は受講料金が9,800円となります。また、KEIBUN友の会会員の方は、「3,000円相当の割引」がご利用いただけます。ただし、各割引の併用はできません。
- ※原則、定員50名になりしだい締め切ります。お早めにお申し込みください。
※講師の都合で講座内容、日程が変更になる場合があります。ご了承ください。
※お申し込みは電話、もしくは24ページに添付の専用申込書を郵送かFAXでお送りください。「ねつとも」会員の方は、ホームページからもお申し込みいただけます。

受講申込受付
TEL.077(526)0011

秋の注目講座!

学芸員が熱く語るリレー講座がよいよスタート!!
安土城考古博物館提携講座
34-02 秋季特別展『造形衝動の一万年』を学ぶ



土偶形容器 (東京国立博物館蔵)

心の深奥から湧きあがる表現欲求とは!?
造形物を通して人間の精神世界に迫る。

9月20日(土)から近江八幡市の安土城考古博物館で開催される秋季特別展『造形衝動の一万年~縄文の宇宙/円空の衝撃/アール・ブリュットの情熱~』をテーマに採り上げ、安土城考古博物館の4人の学芸員がリレー形式でレクチャーする新講座がよいよ大津会場です!!

日本人が一万年の歴史の中で土偶や木偶、埴輪、仏像などに何を表現してきたのか—土器や石器といった実用品以外にも、人間は古くから自らの内側から生じる表現欲求に従い、さまざまな造形物を制作してきました。それは、目には見えないモノへの畏怖か、聖なる神仏への祈りなのか。考古学ではアプローチするのが難しい人間の精神、衝動的な表現欲求について、学芸員が深く掘り下げていきます。

講座の最終日には展覧会『造形衝動の一万年』を見学。土偶、木偶、埴輪といった考古資料をはじめ、立木仏、神像などの宗教美術や民族資料など、学芸員の解説とともに造形表現の歴史をたどり、また、注目されるアール・ブリュット(生の芸術)と呼ばれる現代の作品と並列に見ることで、感性と衝動のもとに生み出される造形本能の根源に深く迫ります。

造形物に秘められた深遠なる世界を一緒に覗いてみませんか?

※美術の専門的な教育を受けていない人が、伝統や流行などに左右されずに自身の内側から湧きあがる衝動のまま表現した芸術



●プログラム(全6回) 各13:30~15:00

9月 5日(金)	カミ・仏・神—造形の衝動一万年—	講師/細川修平
9月19日(金)	土偶に表現された祈り	講師/藤崎高志
10月 3日(金)	豊穡の祈りと木偶	講師/阿刀弘史
10月17日(金)	埴輪から仏像へ・人の造形・仏の造形	講師/細川修平
11月 7日(金)	異形の神仏造形	講師/山下立
11月21日(金)	一現地学習—『造形衝動の一万年』を見る	講師/阿刀弘史

※現地学習には別途参加費が必要です。

Information 安土城考古博物館 平成26年秋季特別展
造形衝動の一万年
~縄文の宇宙/円空の衝撃/アール・ブリュットの情熱~

●開催期間/9月20日(土)~11月30日(日)
※展覧会の詳細はホームページ <http://azuchi-museum.or.jp/> をご覧ください。